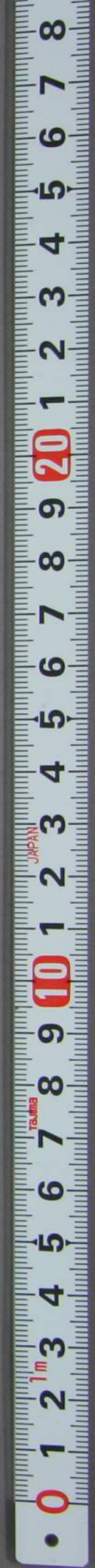


石川景加賀國江沼郡瀨越村ニ住シ父祖旧大聖寺藩
御用達ヲ勤ム其功ニ依リ士族ニ列セラレ永世祿正
米五拾俵ヲ賜ハル世々所有船舶ヲ以テ關西諸貨物
即チ米穀食塩其他雜貨等ヲ北海道ニ積下シ又北海
道肥料其他ノ産物ヲ買入レ是ヲ内地ニ輸送シ以テ
販賣スルヲ業トナス

自分ハ四世二三郎ノ長男ニシテ安政元年十一月三
日ヲ以テ本籍地ニ生ル幼名ニ平ト称ス普通ノ教育
ヲ受ク十六歳ニ至リ徒来扱フ処ノ營業見習トシテ
前支配人広海八兵衛ニ従ヒ大坂及北海道十樽ニ至
ル其二十歳ニ至リ北海道自分出張店支配人タルコ
トヲ命セラレ従事スルコト凡十三年



明治二十年海防ノ事業ヲ翼賛シ費金ヲ献シ其貢ト
シテ銀製黄綬褒章ヲ受領ス

明治廿一年一月ニ至リ家督相續ヲナシ財産タル船
舶田畑其他悉皆ヲ譲リ受ク

今年時勢ノ变换ニ従ヒ日本形船ノ不便ヲ感シ汽船
數艘ヲ購入シ船体核関ノ監督トシテ英國人バート
ンナル者三年間傭入日本全國及ヒ北海道ノ航路ヲ
開始營業セリ

今年北海道物産高及ヒ船舶所有者ノ一大團結スル
ニ際シ其發起者撰奉セラレ北陸親議會ヲ起シ創立
后幹事トナリ高機及西締ノ任ニ當リ大ニ改良スル
所アリ今高本會ニ幹事長ヲ勤務セリ

今年本籍地ニ於テ郡制發布ニ際シ大地主議員トナ
ル

明治廿二廿三ノ兩年ハ曩ニ譲リ受ケタル日本形船
悉ク賣却シ益々汽船ヲ増加シ既ニ汽船四艘西洋形
風帆船五艘ヲ所有シ北海道物産ノ輸送ヲ圖リ大ニ
小樽地方人士ノ贊助ヲ得タリ

明治廿四年大坂高業會議所ノ設立アルヤ市民ノ共
奉ニ依リ是カ會員トナリ今尚勤務ス

明治廿五年東京ニ於ケル海員救済會阪神委員タル
コトヲ總裁殿下ヨリ囑托セラレタリ就テ廿六年再
ヒ本部ノ委員ヲ囑托セラレ今尚勤務ス

明治廿七年七月高業及船舶製造并ニ荷客運送視察

ノ傍ラ市加俄博覽會ヲ應ネ米國ニ渡航ス其加那多
ニ着シテヨリ米國諸邦ヲ經テ英國ニ至リ白耳義和
蘭陀、独逸、埃多利、伊太利、佛國ヲ經テ印度諸港ヲ巡視
支那ニ航シ歸朝ス

是ヨリ先明治廿四年全國汽船所有者一郵船商船ヲ除
ク一同盟ヲ企ツ同業者ナル故中國馬場道久東京淺
野総一郎ノ兩氏ニ謀リ同盟團結シテ益々本業ヲ隆
盛ナラシメシカ為ソ日本海運業同盟會ヲ創立シ是
カ規約ヲ設ケ取締ヲ為ス致シ其委員ニ撰奉セラル
ル後部ヲ東西ニ分ツ今内閣西部長タリ
明治廿七八年日清戦役ニ際シ陸海軍ヨリ所有汽船
ノ供用ヲ命セラル即チ七艘ヲ供ス其噸數千萬噸以

廣本製

上トナレリ戦後是カ為ソ賞状ヲ受領セリ
明治廿九年秋汽船業者及ビ關係商人ノ發起ニ係リ
資本金參百萬圓ヲ以テ日本海上保險會社ヲ創設シ
創立委員ニ撰奉セラル後々委員長トナリ設立ノ曉
社長トナリ今ニ在勤セリ
今年筑前縣手郡宮田ニ於ケル炭坑ヲ買取ソ是カ開
坑ヲ為シ採掘ニ從事ス現今ニ至リ産今年採炭額千
億圓斤内外ニ及フ
今年豊后國玖珠郡九重山ノ硫黃三坑區ヲ買取シ諸
般ノ改良ヲ為シ既ニ産今年製出額百斤入産萬俵内
外ニ及ホス
今年我所有船舶ヲ以テ印度及ビ新嘉坡西貢香港等

ノ航路ヲ開始シ係セテ所有坑ヨリ採掘スル石炭ヲ
輸送シ販賣ニ従事ス

明治三十年赤十字社正社員ニ列シ有功章ヲ受領ス
今尚船舶及北海道事業確業等継続セリ其本店ヲ大
坂市西區江之子島東ノ町ニ設ケ北海道小樽堺町ニ
支店ヲ置ケリ其船舶定繫港ハ大坂神戸ノ二港ナリ
此他幾々タル實狀教多アルモ繁雜ナルヲ以テ省之

明治三十年八月

大坂市西區江之子島東ノ町

八松八番屋敷寄番石川縣士族

廣海二三郎